2016年4月2日(土) 第10回「聖書で読み解く映画カフェ」上映作品

「最高の人生の見つけ方」の見どころ

THE BUCKET LIST 2007 年製作 97 分

上映前

- ●ワーナー在社最後の製作作品の中の一本で、退社後2か月目に全国公開。
- ●「スタンド・バイ・ミー」や「ア・ヒュー・グッドメン」などで知られる知性派監督<u>ロブ・ライナーが、アカデミー俳優のジャック・ニコルソン、モーガン・フリーマンの二人</u>を使って、<u>誰の人生にも最後に必ず訪れる"死"の問題</u>を取り上げ、ユーモラスに、また真面目に最高の人生の全うの仕方を描いたヒューマン・コメディー作品。<u>余命6か月を宣告された二人の男が、死ぬ前にやり残したことを実現するために世界に冒険に出るハートフル・ストーリー。</u>
- ●セリフがウィットに富んでいる。日本人観客は笑いが少ないので、大いに笑おう!

スタッフ・キャスト

●キャスト:

百万長者エドワード(ジャック・ニコルソン) 自動車修理工カーター(モーガン・フリーマン)クイズ好き

●スタッフ

監督:ロブ・ライナー

製作:ロブ・ライナー、グレイグ・ゼイダン、ニール・メロン、アラン・グライスマン

脚本:ジャスティン・ザッカム

あらすじ

●仕事に人生をささげた大富豪エドワード(ジャック・ニコルソン)と、家族のために地 道に働いてきたカーター(モーガン・フリーマン)は、入院先の病室で知りあった。共に 余命は 6 か月。やりたいことをすべてやり尽くそうと決意し、無謀にも病院を脱出。"やりたいことリスト"を手に、さまざまなことに挑戦する。

●《詳細版》 46 年の間、家族のためにひたすら働いてきた自動車整備工カーター・ チェンバーズ(モーガン・フリーマン)。彼は学生時代、哲学の教授から勧められ"棺おけリスト"を作ったことがあった。それは、自分たちが棺おけに入る前に、やりたいこと、 見たいものすべてを書き出したリストのことだった。とはいえ、カーターの前には現実という壁が立ちはだかった。結婚、子供、さまざまな責任。そのうち"棺おけリスト"は、その チャンスを失ったという苦い思い出と、仕事の合間に時折思い出す程度の空想に変わっていた。

一方、会社を大きくすることに人生の全てをつぎ込んできた大金持ちの実業家エドワード・コール(ジャック・ニコルソン)。多忙な人生を過ごしてきた彼は、企業買収やおいしいコーヒーを飲むこと以上に、より深く自分が求めているものについて考えることさえできなかった。対照的な人生を歩んできた、出会うはずのない二人。しかし彼らは、ガンで余命6か月と宣告され、病院のベッドで隣り合わせたことから、人生の最後を共に過ごす仲間となる。ベッドの上でカーターが取り出した"棺おけリスト"。そこにカーターは「荘厳な景色を見る」、「赤の他人に親切にする」、「涙が出るほど笑う」と記した。それを見たエドワードは「スカイダイビングをする」、「マスタングを乗り回す」、「ライオン狩りをする」、「世界一の美女にキスをする」と付け加える。こうして、病院を飛び出した二人の生涯最後の冒険旅行が始まる。タージマハルから野生の楽園セレンゲティ、最高級のレストランからいかがわしいタトゥーショップ、レースカーのコックピットからスカイダイビング用の

小型機まで。ひとつまたひとつとリストを埋めていく中で、二人は生きる上で直面する 様々な疑問に取り組むことになる。やがて、二人は気づかないうちに生涯の友になって いくのだった……。

- ●二人に残されていたなすべきこと:
- ① 死の受容=自己受容: これまでの自分自身を受け入れ、自分の下してきた選択を受け入れ、最後の突然の死をも受け入れること。
- ② 残された時間の完全燃焼: 自分がやりたいと思っていたことを全てかなえることに 費やすこと。
- ●こんなことを考えなら、映画をお楽しみあれ。
- ① 自分にとって、"最高の人生"ってなんだろう?
- ② 自分がリストを書くとしたら、どんなことを書くだろう?

上映後

- ●死ぬ前にやりたいことリスト: 原題 The bucket list は Kick the bucket のイディオムから。⇒首つり自殺するとき、バケツの上に乗り、それを蹴飛ばすことから、「死ぬ」こと。日本語"棺おけリスト"。これは二人の共作。
- ① スカイダイビング
- ② 世界一の美女にキスをする
- ③ 泣 く(涙が出る)ほど笑う
- ④ 見ず知らずの人(赤の他人)に親切にする
- ⑤ 荘厳な景色を見る
- ⑥ 入れ墨をする
- (7) ピラミッドを見る
- ⑧ 香港に行く

- ⑨ マスタングを乗り回す
- ⑩ ライオン狩りをする
- ① 世界一の美女にキスをする

《そのために訪れたところ・乗ったもの》

- ▶ タージマハル
- ▶ アフリカの野生の楽園セレンゲティ
- ▶ 最高級のレストラン
- ▶ いかがわしいタトゥーショップ
- ▶ 年代物のレースカーのコックピット
- ▶ スカイダイビング用に扉が開かれた小型機
- ●遺言と共に、私たちも自分で書いてみるといい。
- ⇒悔いのない人生
- ・自分が大切だと思うこと
- ・他人や社会のためになると思うこと
- ・お金、資産に関すること
- 仕事、ビジネスに関すること
- ・健康に関すること
- ・成長に関すること
- 家族に関すること
- 人のつながりに関すること
- *定期的に見直したり、日付を入れたりするといい。

この映画の見どころ ★人生についての5つの考察:

(1)"死"は人生100%の確率:

誰にも"平等"に訪れる。しかも、それまでの人生の幸不幸にも、経済的成功・不成功

にもよらない。

エドワード:富の力を頼みとし、家族を犠牲にしてきた。

カーター: 真面目に、家族に仕えてきた。

- →メメント・モリ「死を覚えよ」。
- →我々は、下の二重の意味で、"死と隣り合わせの人生"を生きている。
- ① 普段は気づかないが、"死"はいつもすぐ隣にある。
- ② "生"と"死"はペアで考えるべきもの。人生の両輪。
- → 死の備えがあって、よりよき生を生きられる。(人は生きてきたように死んでゆく。《柏 木哲夫》)

(2) 人生は出会いである:

神が合わせてくださる出会いは、伴侶でも、友でも、"<u>不思議</u>"としか言いようがない。 人間の常識では、絶対に出会いそうもない人と。この二人にとっては、それは<u>"がん"という不治の病で同じ病室になったことだった。</u>

最初はまるで水と油のようにことごとく反目し合った二人だが、次第にお互いの違いを 受け入れ合うようになったばかりか、「死ぬ前にやりたいこと」リストを書き、エドワードの 財の力でそれを実行すべく、世界旅行に飛び出すのだ。それからあとの映画後半は、 これが死を迎える者たちかとあきれるほどの、痛快な冒険旅行の数々だが、そんな中、 今や堅い友情で結ばれた敬虔なクリスチャンカーターの影響で、エドワードは人生で最 も大切なことに、次第に気づき始める。

《映画のセリフ抜粋紹介》 = 証しと個人伝道(カーターは最高の個人伝道者: 相手を 否定せず、受け入れながら、信仰の中身は明確に証し)例えば;

- ① 飛行機の中での創造論
- ② エドワード、ダンテの「神曲」に言及(=死後の世界への興味と恐れ)
- ③ 最後のエドワードの<u>弔辞</u>: これほど友情に満ちた美しい弔辞は少ない。

* キリスト者にとって出会いとは、自らの信仰を証しし、一人の人間の運命を永遠に変えるチャンスに他ならない。「あなたと出会えてよかった」と互いに言える出会いを。

(3) 人生のチャンスは最後まである:

*エドワードの"やりたいこと"の中で、「世界一の美女とキスをする」(=自分の姪)も、「見ず知らずの人に親切にする」(=カーターだったと気づく)も旅行後だったし、最後の「荘厳な景色を見る」は、彼の死後の埋葬時にかなえられた。

- ●神様の計画は、人の思いを超える: しばしば思いがけない方法でかなえられる。
- ●神様の全能は、人の不可能を超える: 人の魂の救いもまた同じ。いまわの際まで。
- ⇒「信じるなら、神の栄光を見る。」(キリスト。ヨハネ11:40)⇒決して諦めてはいけない。

(4) 人生の危機を支えるもの:

→家族・伴侶の祈りと愛。カーターを気遣い、共にいたいとエドワードに早期帰宅を願う妻。彼が旅を終えて家に帰った時、無事を喜び感謝の祈りをする妻と長男や子供たち。

結び

(5) 最高の人生とは?:

ビジネスの世界で存分に生きてきたエドワードだが、それまでの自分に欠けていたこと、備えのなかったものは、次の2つ。

- ① 家族愛の温かさ
- ② この地上の生涯を終えたあとの自分の魂の行き場所。後悔なく死ねるように、やりたいことを全てやり遂げた彼が、「最高の人生」の仕上げとして"心のリスト"に書き加えたのは、確かにかなえられた次の2つだったに違いない。
- ① 家族に守られて死ぬこと。
- ② 一足先にカーターの待っている、永遠の命の世界に旅立つこと。

●真の最高の人生とは?

→神を信じ、神と共に歩む人生。⇒そこにこそ永遠の祝福がある。